



令和3年度  
函南小学校  
学校支援会議便り  
No.2  
文責 渡邊

## 大切な「生命」を守る教育活動を目指して

令和3年6月28日(月)に千葉県において、下校中の小学生の列にトラックが突っ込むという傷ましい事故が発生しました。本校では、6月25日(金)に地震を想定した避難訓練を実施し、その際、校長より全校児童に「生命の大切さ」について、地震等の自然災害から身を守ることはもちろんのこと、交通安全や川遊び等の危険等からも大切な生命を守るということについて話をしたところに、今回のような悲しい事故が伝えられました。

6月26日(土)には、通学路の草刈りを函南小学校支援会議委員の有志と現PTA役員そして旧PTA役員の有志の協力の下、実施しました。6月24日(木)に本校の校区で不審者による声掛け事案が発生しました。通学路である来光川の土手を整備することで、視界が開け子供たちの安全が見守りやすくなりました。また、仁田交差点の通学路の草刈りは、草を避けずに歩くことができ、雨の日も安心して通学することができるようになりました。

事故発生の翌日である6月29日(火)には、本校の見守り隊である協力員が登校中の児童を交通指導員とともに見守ってくださっていました。本校の児童は、保護者の皆様や地域の皆様に見守られとても幸せであります。

さて、本校のPTA活動を紹介した文章の一部を下記に紹介いたします。これは、令和3年度の田方地区PTA指導者研修会で久保田PTA会長が発表を予定していた原稿です。新型コロナウイルス感染症の拡大防止を受け、本年度は紙面での発表となりました。

### 【令和3年度 田方地区PTA指導者研修会】

#### 研修テーマ「学校教育への協力～あたらしい時代に向けた学校教育への協力～」

函南町立函南小学校 PTA会長 久保田 敦

#### 1. はじめに

函南小学校は、明治6年に第二大学区第一番中学区第八番小学校函南学校として、大土肥妙高寺に開校した歴史ある学校です。学区は、箱根山に源を発する来光川が南流して平坦地に注ぎ、やがて柿沢川と合流するその左右に位置する仁田・八ツ溝・大土肥・上沢・新幹線の5地区からなっています。南北およそ4km、東西1km弱の細長い地形をしており、学校は、その南端の仁田地区に位置しています。

以前は、稲作や果樹栽培等が盛んな農業中心地域でありましたが、昭和40年代後半頃から住宅需要の波により農地の転用化が進み、宅地化されていきました。

平成25年度末の東駿河湾環状道路の開通により、学区の様相は大きく変容してきました。道路の整備に合わせて自動車の通行量が増え、交通安全への啓発が重要性を増しています。これまでに工事の進捗状況により、幾度ともなく通学路の見直しや変更が行われてきました。

このような状況にあって、人口の流出も激しく、現在では以前からの居住者を流入者が上回り、地域住民や保護者の価値観が多様化してきました。

#### 2. 具体的な取り組み

この発表では、「つなぐ」を柱とした本校のPTA活動の取組と「おやじの会」と連携した取組を紹介します。

(1)「交通安全リーダーと語る会」への参加と町行政等への交通安全施策に係る要望書の提出について

「交通安全リーダーと語る会」は、児童の交通事故防止対策の一環として、学校、保護者、地域関係者等が密接な連絡のもと、「交通安全リーダーと語る会」を開催し、交通事故防止と交通安全活動の推進を図ることをねらいに毎年開催しているものです。

本校では、6年生、PTA役員、警察関係者、役場の担当職員、学校職員、交通安全指

導員、交通安全ボランティアが参加しています。

会の内容は、「登下校の交通安全」をテーマに、地区ごとにグループとなり、6年生が自分たちの通学路の危険な場所や交通安全リーダーとして気を付けること等を事前に調べ、発表していき、大人がアドバイザーとなり意見を述べる形で進められるものです。

この会の後半には、各地区から出された危険箇所等を6年生が発表し、会の参加者全員で共有し、交通安全を守ることの大切さを確認して終わります。

しかし、令和元年度の取組は、これまでの活動を大きく前進させるものとなりました。それは、子供たちから出された意見を大人が真摯に受け止め、具体的な行動として表したのです。子供の「交通安全」に対する切実な思いを大人がつなぎ、PTAが中心となり行政機関である町当局に働きかけたのです。

令和元年5月に、大津市において信号待ちをしていた園児たちが犠牲になる痛ましい交通事故が発生しました。本校の通学路においても、伊豆縦貫道の開通により道路が拡張され、交通量が増加したことにより、同様の事故の発生が心配されるところです。

「交通安全リーダーと語る会」に参加したPTA会長をはじめとする参加者（PTA副会長、校外生活部長、副部長、交通安全母の会担当、学級役員）は、これで終わりにするのではなく、交通安全に対する子供たちの思いと大人の思いをつなぎ、函南小学校のPTAとして要望書を町当局に提出することにしました。その後、PTA役員会において「函南小学校通学路の交通安全対策に関する要望書」の提出について決議し、PTA会長がPTAを代表して要望書を提出しました。

具体的な要望としては、大土肥の熱函入り口交差点と同じ大土肥の八ツ溝入り口交差点の交通事故を未然に防ぐため、交差点への安全柵等の設置を求めたものです。大土肥地区の区民の方々とも連携し、働き掛けました。令和元年度は、安全柵等の設置には至らなかったのですが、令和2年度には安全策が設置されました。本校PTAの取組が地区の方々と連携し行動できたのは、「交通事故から大切な子供の生命を守る」という思いでつなぐことができたからであると考えます。

## (2) 「おやじの会」と連携した取組

本校の「おやじの会」は、平成27年にスタートしました。

令和元年は、夏と冬の2回、イベントを計画し、開催しました。夏は「流しそうめん・レクリエーション大会」を実施し、冬には「火起こし体験と焼き芋、レクリエーション大会」を実施しました。

計画・運営は、「おやじの会」のメンバーが行いました。「おやじの会」では、本校のPTA役員を経験した方の多くが主要メンバーとなっており、私たちPTA役員も応援団という形で参加しています。低学年の子供をはじめ、その保護者も参加するなど、当日は大賑わいでした。

「おやじの会」は、地域や保護者の有志の方々で組織、運営されています。わたしたちPTAは応援団となり、子供たちの笑顔を楽しみに共に思いや活動といったものをつないでいるのです。

令和2年度は、コロナ禍の中、6年生を対象に「ランプシェードプロジェクト」を企画し、安全に留意しながら実践しました。

『「ランプシェードプロジェクト」』は、とても嬉しかったです。感動しました。自分たちが一生懸命に作ったランプシェードはとても輝いていました。そして、笑顔になりました。今度は、自分がみんなに笑顔が届けられる人になりたいです。」

今回の「ランプシェードプロジェクト」の実践を通しての子供の感想です。子供たちは、地域の方々の温かさを強く感じ、勇気づけられ、将来の自分の生き方にまで思いを寄せることができました。

今後も、子供の笑顔を大切に、地域社会とつなぐ関係性を築いていきたいと考えます。

## 3. 成果

「つなぐ」ということを柱に、PTAとして様々な活動に取り組んできました。大切なことは、子供たちのためにPTAとして何ができるのかを考え、これまで以上に学校と保護者、地域の方々が手を携えて活動できたことにあります。本校では、令和2年度より学校運営協議会（コミュニティスクール）が始まりました。この会には、PTAの代表も参加します。保護者の視点から意見を述べることで、今まで以上に学校と地域社会とをつなぐ役割を果たしていきたいと考えます。

「生命」の尊さを大切に今後も教育活動を推進してまいります。保護者の皆様、地域の皆様、どうかこれからも学校の教育活動に対して、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

